



# 目次



第①章	歴史を伝えるアカマツ	1
第②章	麻生町の誕生	3
第③章	帝国製麻琴似亜麻工場の歴史	6
第④章	亜麻産業の盛衰※	12
第⑤章	まちの歴史を伝える	15



まだ人家もまばらだったころの麻生の町に、明治から昭和にかけて植物の亜麻をあつかう大きな工場（亜麻工場）がありました。工場は、働く人たちの生活を支えました。工場がなくなると、そのあと地（工場があった場所）にはたくさんの家が建ちました。町に住む人々が増え、商店街がにぎわい、地下鉄の駅もできました。

麻生の町が発展するいしずえ※となった亜麻工場とはどんなところだったのでしょうか。その歴史をふり返りながら、亜麻工場が町に何をのこし、今に何を伝えているかを考えてみましょう。



## あま 亜麻って何？

亜麻は、くきの高さが40センチメートルから1メートルくらいの植物で、くきからは天然のせんい（糸の原料になるもの）を、種からは油を取ることができます。初夏から夏にかけて青紫色又は白色の花を咲かせ、最近では花を見て楽しむために育てられることも増えています。



▲亜麻の花

## ? むずかしいことば

※盛衰 ものごとのいきおいがさかんになることと、おとろえること。

※いしずえ ものごとの大もと。